

令和7年度 学校経営の改革方針

鈴鹿市立国府小学校

1. 学校教育目標

「 まなび つながり のびる 国府の子 」

～ 地域とともに『生きる力』を育む学校 ～

2. めざす学校像

1. 「国府っ子」(こころ うつくしい つよい こども)を育てることで地域に貢献する学校
2. 児童の学力向上に尽力し、一人ひとりが生きる授業を大切にする学校
3. こどもと教職員が繋がり合い、秩序と活気あふれる学校
4. すべてのこどもと教職員が安全で安心できる居場所のある学校
5. 地域と協働してこどもたちを育む「地域とともにある学校」
6. 教職員が役割とやりがいを持ち組織的に対応できる学校

3. 学校経営方針（中長期的重点目標）

（1）学力向上・ICT 活用促進

- ・基礎学力の定着を徹底し、わかる喜び学ぶ喜びを実感できる授業づくり
- ・一人ひとりの子どもが考えをもち、主体者として学ぶ授業づくり
- ・算数科と国語科を中心に一人ひとりのこどもがICTを活用した授業づくり
- ・保護者と連携した家庭学習の定着、ICTを活用した家庭学習の工夫
- ・日々の授業を丁寧に取り組み、互いに高めあう教師集団

（2）人権教育の推進

- ・こどもの権利条約の理解に基づく人権教育を実践する職員の育成
- ・一人ひとりの思いを大切し、互いの人権を尊重し合う心を育てる学級・学年集団づくり
- ・「あいさつ」が響き合い「あいさつ」でつながる仲間づくり
- ・校区人権カリキュラムに基づく系統的な人権学習の実施
- ・こどもたちの言動を価値づけして誉め、自己肯定感をもちさせる教職員体制
- ・いじめをしない、させない、許さない、見逃さない、「こころ うつくしい つよい こども」の育成

(3) すべての子どもに安心できる居場所がある学校・長期欠席0目標

- ・特別支援コーディネーターを核とした全校で見守り育てる特別支援教育の推進
- ・子どもたちに寄り添い一人ひとりのこどもたちのニーズに応じた教育の実践
- ・いじめや問題行動の未然防止
- ・児童の困り感の早期発見につとめ、児童が安心して学校に登校し、楽しく学校生活をおくることを最優先に考える学校運営
- ・日本語支援による外国人児童の学力保障

(4) 非認知能力の育成

- ・組織的全校体制で教職員と児童がともに非認知能力向上をめざす
- ・非認知能力育成について保護者への周知啓発により、理解と協力を促す

(5) 地域ぐるみの教育の推進

- ・学校運営協議会の協議内容を学校運営に反映させ、連携に努める
- ・地域コーディネーターを中心に学校ボランティアとの連携を深める
- ・地域の力を学校の教育活動につなげる
- ・「学校だより」「ホームページ」で、保護者、地域への積極的な情報発信

(6) 勤務時間の縮減等、教職員の職場環境の改善

- ・「ワーク・ライフ・バランス」を管理できる職員育成
- ・定時退校日を月に2日以上設定し、設定日の定時退校のため計画的に仕事を行う
- ・「困った時こそ声に出す」困り感を抱えない職場風土づくり
- ・会議関係書類は2日前には関係教職員に配付し、事前に熟知し、効率化に努める
- ・日頃の報連相を充実し、週2回の打ち合わせで会議などの時短に生かす
- ・スクールサポートスタッフの活用により、校務処理負担の軽減を図る
- ・備品、消耗品の整理整頓を心がけ仕事の能率化を図る